

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	福島県国際交流協会
実習期間	平成 31 年 2 月 12 日 ～ 平成 31 年 2 月 16 日
学生氏名	原 聖那
実習プログラム	実習時間:9:00～17:15 1日目:自己紹介・オリエンテーション、新聞記事スクラップ、県庁国際課訪問 2日目:スピーチコンテスト審査員、Facebook用の原稿作成、アンケート・統計の集計 3日目:JICAについての説明、フェスの準備、通訳員の方と対話・インタビュー、会議の議事録作成、ポスターカード作成 4日目:フェスの道具準備、Facebook用の原稿作成、会議のお茶出し、資料作成、新聞スクラップ 5日目:本棚整理、フェスの準備、GCカフェの会場作成、GCカフェに参加
学び・気づき (300字程度)	私は今回のインターンシップを通して、社会人としての基本的なマナーから人との出会い、多文化を地域の方々へ伝え理解を深めて、共生していく大切さを学ぶことが出来た。基本的なマナーでは、電話対応や会議でのお茶出し、議事録の取り方・資料作成の業務を教えて頂いた。これらの業務以外にも、スピーチコンテストの審査員やGCカフェの参加もさせて頂いた。このような経験から、国際交流理解の在り方を学べただけでなく、国際交流・協力についての関心、知識も深めることが出来た。
今後に向けた 抱負 (200字程度)	実習では、多くのことを学べただけでなく、課題も発見出来た。元々自分から積極的に行動したり、話しかけられず、交流の幅を広げて来なかった。そのため、インターンシップの初日に、普段関わることの出来ない方々とお話出来る機会を無駄にしてしまった。協会の方に相談した際に、「嫌なことから逃げていたら、進歩できない」「食欲に質問すべき」と指摘をうけた。その言葉が心に強く響き、何事も自分から行動を起こさなければ変わらないと改めて思った。翌日からは質問を積極的にしていくことで、知りたいことだけでなく新たな知識も増やすことが出来た。これからは、人とのコミュニケーションを取る時や疑問に感じたことがあったら、自分から行動を起こして行こうと思っています。
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)	インターンシップ参加前は、国際交流と聞くと外国の方々とコミュニケーションを取るという漠然としたイメージであった。確かに、地域に住んでいる外国人のサポート業務もあった。しかし、実際は地域の方々に国際交流が具体的にどのような活動か出張講座やフェスのようなイベントを通して、広める機会の方が多かった。多くの経験をさせて頂いた中でも、日本語学院の生徒の皆さんのスピーチコンテストに審査員として参加した事やGCカフェでの英語ディスカッションで、多くの外国人の方や地域の方々と交流を深められたことが強く印象に残っている。このような外国人の方や地域の方々と交流する機会が増えることで、より一層国際交流の理解が深まり、広がっていただけでなく、地域活性化にも繋がっていきけるのではないかと感じた。

写真 (1~3点)



1

